

---

# さる豪邸内の一室が見た記憶「亭主への復讐」

藻ノかたり

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

さる豪邸内の一室が見た記憶「亭主への復讐」

### 【Nコード】

N6792L

### 【作者名】

藻ノ かたり

### 【あらすじ】

白亜の豪邸の一室。年配の貴婦人が一人つぶやいている。今日こそ、待ちに待った夫への復讐が成し遂げられると……。

小高い丘の上にそびえ立つ白亜の豪邸。その一室で年輩の貴婦人が  
落ち着かない様子で歩き回っている。

「ああ、やっと私の夢がかなうんだわ。あの憎たらしい亭主に最大の復讐をする時が。この日を何十年待ったかしら」

彼女は更に足どりを早め、独りごとを続けた。

「今まで貞淑な妻を演じてきたのも、この瞬間のため。むかし愛する人から無理矢理引き離され結婚させられた恨み、絶対に忘れないわ」

自分の言葉に勇気づけられるかのように、彼女の胸の鼓動は益々お  
おきくなっていく。

「医者の話だと、あの人の命も今宵限り。その死の瞬間に私はあの人にこう言うの。このハゲ頭の豚野郎。地獄へ行ってハラワタ引きずり出されやがれ！ってね。私を愛し信頼しきっているあの人を絶望の淵へたたき込んでやるのよ。安らかな死なんて絶対むかえさせないわ」

そして計画を噛みしめるように貴婦人は呟き続ける。

「あの人がボケてしまわないか、それだけが心配だったけど、衰弱しても頭だけはハッキリしていて助かったわ。私の事がわからないんじゃ、復讐にならないもの。あゝ、それにしても食事はまだかしら。もうお腹が減って仕方がない。最後の瞬間のために腹ごしらえ

したいのに」

その時、ドアがノックされ執事が部屋に入ってきた。

「奥様、お食事の用意ができました」

甲斐甲斐しく頭を垂れる執事の横をすり抜け、食堂へと向かう貴婦人。

彼女の後ろ姿を見送る執事がつぶやく。

「これで今日、五度目の食事だ。ますます認知症がお進みになられて……。明日は亡くなられた旦那様の十三回忌だということも、おわかりにならないご様子。何とも、おいたわしや」

END

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6792/>

---

さる豪邸内の一室が見た記憶「亭主への復讐」

2011年10月6日16時13分発行